



## 十才、真夏の大冒険

西武学園文理小学校 4年 川口 颯

この夏ぼくは家出をした。お母さんとケンカしたからだ。たしかにぼくも生意気だけどお母さんがぼくばかり責めるからゆるせなくなつた。

「もういいよ。オレ、ママがあやまるまで帰らない！」

外に出ようとするぼくをお母さんは止めない。予想とちがったけれど、もう引き返せない。ぼくにもプライドがあるんだ。こくなつたら仕方ない。おばあちゃんちに行こう。

歩いて十分もかからないところにおばあちゃんの家はある。一人で歩くその道は何だかいつもと違って見えた。へえ、こんなところにヒマワリ咲いてる！うわっ、セミがひっくり返ってる!! だれだよ…こんなところにゴミ捨てちゃう人…車で通りすぎたら気づかない色々なことが道の上にはたくさんあった。と中の広場にはスケボーをやつてるお兄さんがいた。うまいなあ。そういえばオリンピックでメダルいっぱい取つてたなと思つたとき、アナウンサーが「十才、真夏の大冒険！」つて言つてたのを思い出した。あっ！家出中のオレも「真夏の大冒険」じゃんつて思つたら、ちよつと面白くなつてきた。

それからまたぼくは歩き始めた。お母さんのことが気になつた。心配してるかな？おこつてるかな？あやまればよかつたな。

家にもどろろかな。そんなことを考えながら前を向くとおじいちゃんが見えた。連絡を受けて出てきてくれたんだ。ホッとして涙が出そうになつたけどグッとこらえた。ぼくは冒険家だ。泣くわけにはいかない。がんばつて笑顔を作つた。

こうして、ぼくの家出作戦はたつた十分で終わった。十分の道はぼくにいろんなものを見せてくれた。おかげで少しづつ気持ちも明るくなつていったし反省もした。

す直にお母さんにあやまることもできた。一人で歩いたあの道がきつとぼくを少しだけ大人にしてくれたんだ。

(審査評) この作品を推す理由。出だして引きつけるところ。この夏ぼくは家出をした。まるで映画のキャッチコピーの様です。物語があるところ。十分の大冒険の始まりから終りまで、歩くことで発見を繰り返し最後は自分の成長まで発見できています。発見の内容が徐々に深まる物語としてでき上がっています。テンポがよいところ。短い文章を積み重ねてリズムよく書かれています。リズムがよいので、とても読みやすいです。家出をテーマにしたがらしっかり「道」を物語の舞台として活かしているところ。最終的に、全体を通して楽しく読める作品でした。

吉田幸司